

AddPoint/MailWallServer

データ移行(AIT→DAT)手順書

【はじめに】

本手順書では旧AddPointと新AddPointを使用し、AITテープからDATテープヘデータを移行する手順を記します。

【表記】

・本手順では、以下の表記を使用しております。

AddPoint/MailWallServer : AddPoint
AITドライブが搭載された移行元のマシン : 旧AddPoint
DATドライブが搭載された移行先のマシン : 新AddPoint
設定用お客様環境確認シート : 設定シート

【手順書をご利用の前に】必ずお読み下さい。

- ・本手順書にはOSコンソールへrootでログインしての作業が含まれます。
rootは全てのファイルに対する権限を持っておりますので、本手順記載以外の操作や誤った操作を行うと、AddPointサーバが正常に動作しなくなるリスクがあります。
- ・OSコンソールへログインして、本手順記載以外の操作や誤った操作を行った場合は、製品サポート対象外となります。
本手順書をご利用いただく際は、本リスクをご承諾のうえお客様責任において実施して下さい。

【注意事項】

- ・既にデータがバックアップされている AIT テープは、事前にライトプロテクトをして下さい。

データ移行手順

データ移行は以下の手順で行います。

1. ネットワーク接続確認 (pingによる導通確認)
2. 移行環境準備1 (新AddPoint側 : NFSボリューム提供作業)
3. 移行環境準備2 (旧AddPoint側 : NFSマウント作業)
4. AITテープの準備と挿入
5. 旧AddPointにてAITテープのデータをリストア
6. リストア処理の終了
7. DATテープの準備と挿入
8. 新AddPointにてDATテープへデータをバックアップ
9. バックアップ処理の終了
10. データ移行完了後の作業

1. ネットワーク接続確認 (pingによる導通確認)

新AddPointを利用して、AITテープからDATテープヘデータを移行するためのネットワーク接続環境を構築します。

新AddPointは事前に提出済みの新AddPointの設定シートの情報を元に環境設定されています。

(1) 旧AddPointと新AddPointを各々別のIPアドレスで同一ネットワーク上に配置します。

(2) 新AddPointのOS起動後にコンソール上でログインします。

```
login:root  
password:<新AddPointの設定シートに記載してあるrootのパスワード>
```

(3) ログイン後、以下のコマンドを実行し旧AddPointへのアクセスが可能か導通確認をします。

```
[新AddPoint]# ping <旧AddPointのIPアドレス>
```

アクセスできなければ、再度ネットワークの設定等をご確認下さい。

2. 移行環境準備1(新AddPoint側：NFSボリューム提供作業)

新AddPoint側にてNFSボリュームを提供するための設定を行います。

- (1) 新AddPointのGUARDIAN管理画面にログインし、管理サーバーパラメータの設定確認を行います。
ここでは、NFSボリュームとして提供する「/mail2」がメールアーカイブディレクトリとして設定されていることと通知メールに関するパラメータが設定されていることを確認します。

以下が未設定またはパラメータが異なる場合は設定、変更をお願いします。

- ・管理者メールアドレス：「任意」（こちらの宛先にリストア/バックアップの完了通知メールが送信されます。）
- ・通知メール差出人アドレス：「任意」（完了通知メールのFROMアドレスとなります。）
- ・通知メール差出人コメント：「任意」（完了通知メールの件名となります。）
- ・送信先SMTPサーバー：「任意」（ここで設定されているSMTPサーバに完了通知メールを送信します。）
- ・メールアーカイブ保存ディレクトリ：「/mail1:/mail2」
- ・バックアップデバイス：「/dev/st0」

※管理サーバーパラメータの設定確認、変更方法はAddPointのバージョンによって異なります。
新AddPointに付属のマニュアル「GUARDIANSUITE 管理サーバー利用の手引き」をご参照下さい。

※管理者メールアドレス宛てに、バックアップの完了通知メールが届きます。
通知先はバックアップ実行時に変更可能です。

- (2) 新AddPointのコンソール上でログインします。
「1. ネットワーク接続確認(pingによる導通確認)」と同様の手順でログインを行います。
※既にログインをしている場合は必要ありません。

- (3) メールアーカイブディレクトリである「/mail2」を旧AddPointにNFSボリュームとして提供するため、以下のファイルを編集します。

【ファイル名】
/etc/exports

【記載内容】
/mail2△<旧AddPoint>/<サブネットマスク>(rw,no_root_squash)
△=半角スペース

【記載例】
/mail2 192.168.0.98/255.255.255.0(rw,no_root_squash)

- (4) NFSサービスの登録と起動を行うため以下のコマンドを実行して下さい。

```
[新AddPoint]# chkconfig nfs on  
[新AddPoint]# service nfs start
```

3. 移行環境準備2(旧AddPoint側：NFSマウント作業)

新AddPointからNFS設定されているボリュームを、旧AddPointのリストアディレクトリとしてマウントします。

- (1) 旧AddPointのコンソール上でログインします。

```
login:root
password:<旧AddPointの設定シートに記載してあるrootのパスワード>
```

- (2) 以下のコマンドを実行しNFSマウントを行います。

```
[旧AddPoint]# service portmap start
[旧AddPoint]# mount -t nfs <新AddPointのIPアドレス>:/mail2 /restore
```

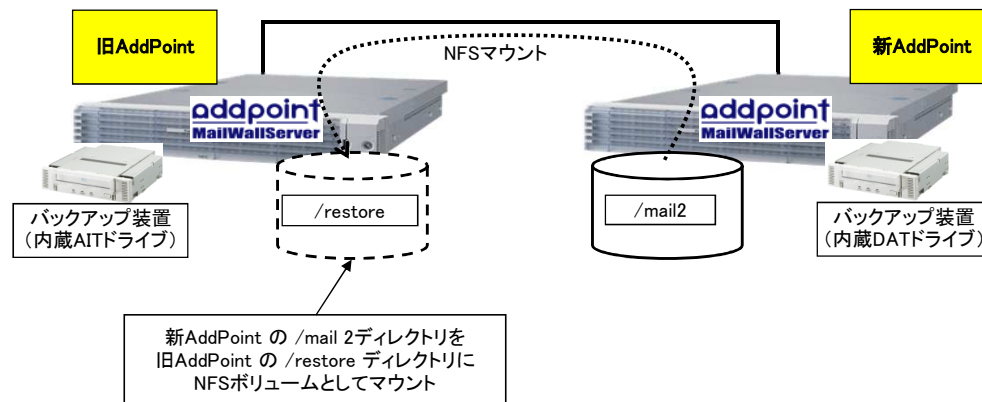
- (3) 以下のコマンドを実行し新AddPointの「/mail2」が「/restore」にマウントされていることを確認して下さい。

```
[旧AddPoint]# df -h
```

以下のようにリストアディレクトリ「/restore」に新AddPointのボリューム「mail2」がマウントされます。

Filesystem					
/dev/sda3	2.0G	519M	1.4G	28%	/
/dev/sda1	122M	53M	63M	46%	/boot
none	1006M	0	1006M	0%	/dev/shm
/dev/sda7	130G	110G	14G	90%	/mail1
/dev/sda8	130G	33M	124G	1%	/mail2
/dev/sda5	4.0G	2.1G	1.7G	56%	/opt
/dev/sda6	2.0G	704M	1.2G	37%	/var
<新AddPointのIPアドレス>:/mail2	226G	83G	131G	39%	/restore

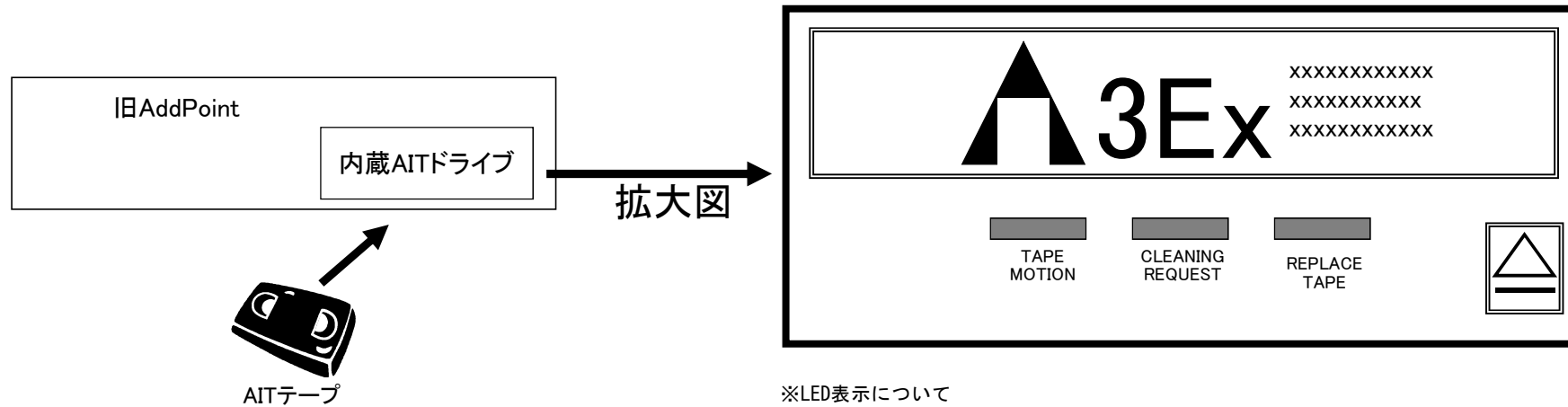
これまでの手順を実施した結果、以下のような構成になっています。



4. AITテープの準備と挿入

データがバックアップされている AIT テープを、旧AddPointに内蔵されている AIT ドライブに挿入します。
テープ挿入時は TAPE MOTION ランプが点滅し、点灯状態になれば使用可能となります。

※ AITテープはライトプロテクトでデータを保護して下さい。



- | | | |
|------------------|---|--|
| TAPE MOTION | : | テープがセットされている場合に点灯します。
Read、またはWrite中に点滅します。 |
| CLEANING REQUEST | : | クリーニングが必要な場合に点灯します。 |
| REPLACE TAPE | : | テープにエラーが起きている場合に点灯します。 |

5. 旧AddPointにてAITテープのデータをリストア

旧AddPointのGUARDIAN管理画面にログインしてリストアを実施します。

(1) 旧AddPointのGUARDIAN管理画面にログインした後、リストア画面を表示し下記パラメータの設定を行います。

【設定項目】

- ・バックアップデバイス：「/dev/st0」
- ・リストアディレクトリ：「/restore」
- ・リストア形式：「すべてリストアする」にチェックが入っていることを確認
- ・完了通知：管理者メールアドレスを入力

※完了通知はデフォルトでは管理サーバパラメータに設定されている管理者メールアドレスが指定されます。
未設定の場合は完了通知を受け取ることが可能なメールアドレスを指定して下さい。

※リストア時の各項目の設定方法はAddPointのバージョンによって異なります。
旧AddPointに付属のマニュアル「GUARDIAN SUITE 管理サーバ利用の手引き」をご参照下さい。

(2) リストア実行

設定完了後、リストアを開始します。

リストア完了時に「完了通知」に指定した宛先に通知メールが送信されます。

通知メールよりリストアの正常完了を確認します。

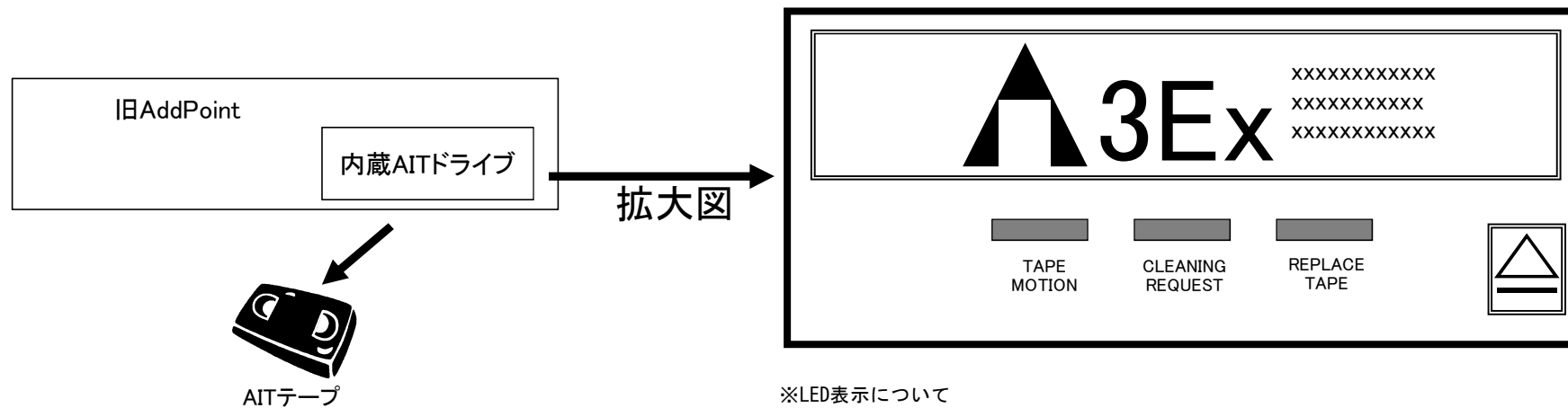
6. リストア処理の終了

リストア処理が完了後、AITテープを抜き出します。

※テープの抜き出しについて

リストア処理が完了すると、内蔵AITドライブの左側のランプ (TAPE MOTION) が点灯したままの状態となります。

またリストア処理中は左側のランプ (TAPE MOTION) が点滅を繰り返します。



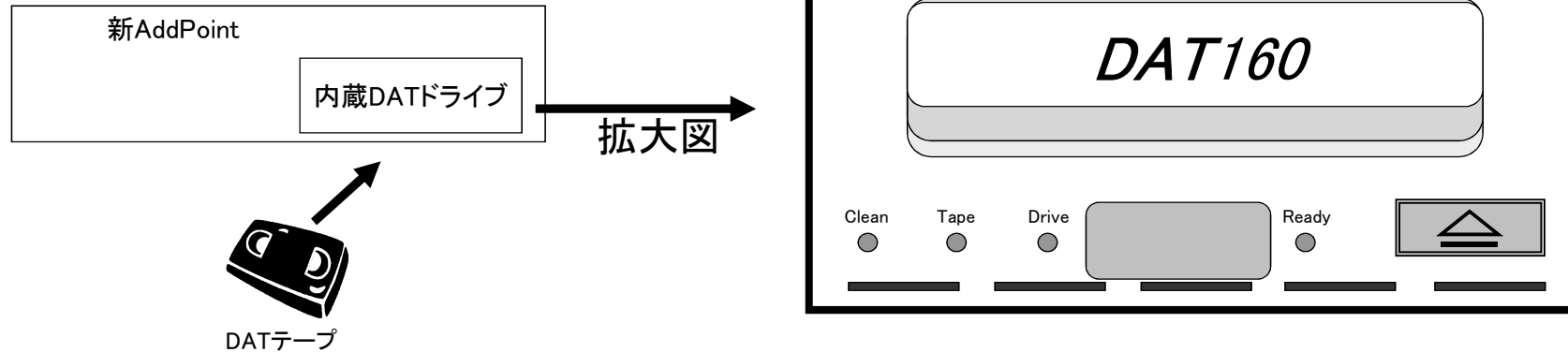
※LED表示について

- | | | |
|------------------|---|--|
| TAPE MOTION | : | テープがセットされている場合に点灯します。
Read、またはWrite中に点滅します。 |
| CLEANING REQUEST | : | クリーニングが必要な場合に点灯します。 |
| REPLACE TAPE | : | テープにエラーが起きている場合に点灯します。 |

7. DATテープの準備と挿入

新しくデータをバックアップするDATテープを、新AddPointに内蔵されているDATドライブに挿入します。
テープ挿入時はReadyランプが点滅し、点灯状態になれば使用可能となります。

※DATテープは、AITテープの容量より大きい容量のテープをご使用下さい。



※LED表示について

- Clean : クリーニングが必要な場合に点滅します。
- Tape : 挿入された、もしくは排出されたテープでエラーを検出した場合に点滅します。
- Drive : ドライブでエラーを検出した場合に点滅します。
- Ready : テープが挿入されていて、待機状態の場合に点灯します。
Read、またはWrite中に点滅します。
また、排出準備状態時には2回点滅を繰り返します。

8. 新AddPointにてDATテーブルヘデータをバックアップ

新AddPointのGUARDIAN管理画面にログインしてバックアップを実施します。

(1) 新AddPointのGUARDIAN管理画面にログインした後、バックアップ画面を表示し下記パラメータの設定を行います。

【設定項目】

- ・ 期間：選択可能な一番古い日付を開始日として選択
- ・ 対象データ：「メール」のみを対象
- ・ アーカイブ保存ディレクトリ：「/mail2」を対象
- ・ バックアップデバイス：「/dev/st0」を選択
- ・ 保存形式：「上書き」を選択
- ・ 完了通知：管理者メールアドレスを入力

※完了通知はデフォルトでは管理サーバパラメータに設定されている管理者メールアドレスが指定されます。

「2. 移行環境準備1(新AddPoint側：NFSボリューム提供作業) - (1)」にて確認、設定した管理者メールアドレスとなります。

※バックアップ時の各項目の設定方法はAddPointのバージョンによって異なります。

新AddPointに付属のマニュアル「GUARDIANSUITE 管理サーバ利用の手引き」をご参照下さい。

(2) バックアップ実行

設定完了後バックアップを開始します。

バックアップ完了時に「完了通知」に指定した宛先に通知メールを送信されます。

通知メールよりバックアップの正常完了を確認します。

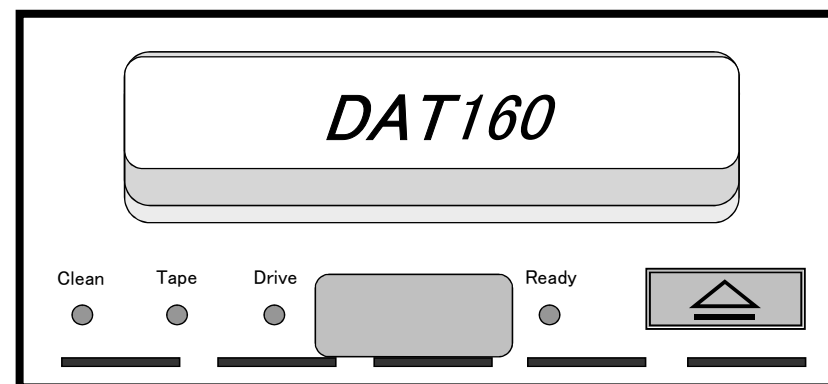
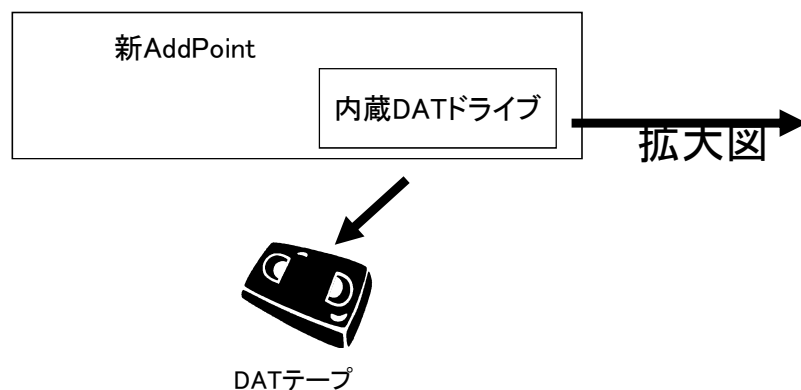
9. バックアップ処理の終了

バックアップ処理が完了後、DATテープを抜き出します。

※テープの抜き出しについて

バックアップ処理が完了すると、内蔵DATドライブの右側のランプ（Ready）が点灯したままの状態になります。

またバックアップ処理中は右側のランプ（Ready）が点滅します。



※LED表示について

Clean : クリーニングが必要な場合に点滅します。

Tape : 挿入された、もしくは排出されたテープでエラーを検出した場合に点滅します。

Drive : ドライブでエラーを検出した場合に点滅します。

Ready : テープが挿入されていて、待機状態の場合に点灯します。
Read、またはWrite中に点滅します。
また、排出準備状態時には2回点滅を繰り返します。

※注意事項

複数のAITテープからDATテープにデータ移行する場合、手順4.～手順9.を必要なテープの本数分、繰り返して下さい。

10. データ移行完了後の作業

データ移行作業が完了しましたら、下記手順にて設定を戻し、移行に使用した不要な設定の解除、データの削除をして下さい。

- (1) 旧AddPointにおいて、以下のコマンドを実行しNFSマウントしているボリュームをアンマウントします。

```
[旧AddPoint]# umount /restore
```

- (2) 新AddPointにおいて、以下のコマンドを実行しNFSサービスの登録削除と停止を実施します。

```
[新AddPoint]# chkconfig nfs off  
[新AddPoint]# service nfs stop
```

- (3) 新AddPointにおいて、NFSの設定を削除します。
「2. 移行環境準備1(新AddPoint側：NFSボリューム提供作業)」にて /etc/exports ファイルに記載した内容を削除して下さい。

- (4) 新AddPointにおいて、移行に使用したデータを削除します。
新AddPointの「/mail2」に残っているメールデータが削除対象となります。

※注意事項

**必ず新AddPointの「/mail2」配下のファイルのみを削除して下さい。
下記コマンドの実行には十分に留意してください。**

- ① /mail2をカレントディレクトリとします。

```
[新AddPoint]# cd /mail2
```

- ② カレントディレクトリが/mail2である事を確認して下さい。

```
[新AddPoint mail2]# pwd  
/mail2
```

- ③ 以下コマンドを実行しメールデータを削除します。

```
[新AddPoint mail2]# ls | xargs rm -rf
```

- ④ /mail2配下にファイルが存在しない事を確認して下さい。

```
[新AddPoint]# ls -l /mail2  
total 0
```